

背中を押してくれた「言葉」

「自分は

どうありたいのか。

やりたいことを

実現すればいい」

そして私は「う思った

『男性だから、

女性だからではなく、

私らしく』



STEP
SUPPORT

3

大野市で暮らし、働くようになってから、私はこのまちの空気に何度も助けられてきました。清らかな水が流れ、人と人の距離が近い。困ったときには誰かが手を差し伸べてくれる、「結（ゆい）」の文化が、日常の中に息づいています。

環境省で全国を転動しながら働いていた私が、大野市職員としてこの地に根を下ろしたのも、そんな暮らしの感覚に惹かれたからでした。当初は仕事を続けたいという思いと、家庭との両立に迷いもありましたが、母から「自分はどうありたいのか。やりたいことを実現すればいい」と言ってくれたことで、気持ちがずいぶん軽くなったものです。

その後、市政に関わる立場を考えるとようになったときも、私の中にあつたのは「男性だから」「女性だから」という物差しではありませんでした。このまちの未来にどう向き合い、自分はどうありたいのか。その問いを重ねた結果が、今につながっています。

水や自然、人のつながりの中で、安心して暮らせるまちを次の世代につなぎたい。「男性だから、女性だからではなく、私らしく」。この姿勢が、大野のまちごとにも歩む私を、今も支え続けています。

第17・18代 大野市長
石山志保さん

愛知県出身。東京大学卒業後、環境省に入省し、国立公園行政などに携わる。結婚を機に大野市へ移住し、市役所職員として企画・財政分野を担当。2018年、市長に就任し現在2期目。人と自然、地域のつながりを大切にしまちづくりを進めている。

撮影場所：大野市役所